

パンデミック時の資金繰り・財務決算問題

2009年12月10日(木) 14:00—16:30 (13:30開場)

会場 : 新宿区立牛込笹筒区民ホール (都営大江戸線「牛込神楽坂駅」下車0分)

参加費 : 5000円 (2名様まで)

パンデミック時でも、事業継続をする、しないに関わらず、財務決算経理は機能を停止させることはできない。事業継続の重要業務の考察に、その問題点は認識されているのか？
企業の資金繰りにおける課題と、制度としての財務報告の2点の視点から問題提議をする。

緊急報告

教員が経験した 感染爆発の現場

～集団感染はこうして始まった～

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校
生徒安全部 部長 小林一雄氏



第1部

集団感染がキャッシュフローに及ぼす影響

パンデミックの際、従業員の欠勤が原因で事業が縮小、売上がダウンし、キャッシュフローに影響が発生する。場合によっては日々の資金繰りが悪化する。そのような事態が発生すれば、事業の継続は不可能となる。事前に被害想定と資金計画の立案が重要である。



【講師】

中小企業BCP策定運用指針プロジェクト
有識者会議メンバー

眞崎リスクマネジメント研究所代表 眞崎達二朗氏

第2部

財務報告は休止できない

キャッシュフローの影響を想定する基礎は、月次決算が必要である。しかし、パンデミック期に平時と同様の決算業務が実行でき、且つ報告書が同じ期間に完成できるとは限らない。万が一、パンデミック時に経理処理が遂行できなくて、財務報告書が完成できない場合の問題点を整理して、災害基本法と同様の措置が必要なことを提案する。



【講師】

元シティバンク日本法人グループ BCP統括責任者
シーマ・ラボ・ジャパン

代表取締役 上田悦久氏

お問い合わせ

新建新聞社 リスク対策.com 編集部
〒160-0015 東京都新宿区大京町31東苑ビル4F
TEL.03-5312-7740 FAX.03-5312-7741
E-mail:risk-t@shinkenpress.co.jp

会場アクセス

